

1 学期始業式講話

改めまして、おはようございます。

今日から令和7年度新学期が始まりました。最初にいつも伝えていることは3つのことですが、皆さん覚えていますか。

一つ目は授業を大事にしようということです。これは特に部活動等で時間がなくて、家庭学習もままならない人には特に呼び掛けていることです。時間がないならばなおさら授業は集中して聞いてほしいと思います。私が廊下を歩いていると、きまってきょろきょろ見ている人は失格です。何やっているんだって感じです。

二つ目は友だち、人を大切にしようということです。ちょっとした人間関係で頭にきてXやラインに、その人の悪口を書いてしまう人、あるいはなりすましをやる人。それが全世界に発信されていることに後から気がつくのでは遅いです。対面で人間関係がこじれても時間をかけて修復してほしいです。Xやラインに書き込む人、いいかげんにしてやめてください。

三つ目は失敗をしようということです。これは一見マイナスイメージを持つかもしれませんが、特に気の弱い人に呼び掛けたいです。いつもここぞという時に、例えば野球でしたらフライを上げてしまう人、あるいはサッカーゴールをはずす人…、こういった方は打たなくては、入れなくてはという思いで自分を追い込んでしまうんですね。そうした時に失敗をおそれるなというのではなく、必ずやれるという思いを持ってほしいんです。失敗しろという意味は失敗をおそれず挑戦しようということに他なりません。

以上3つのことを覚えていてください。

さて、本日は170年前の話をします。以前30年前の出来事、阪神淡路大震災やオウム真理教の地下鉄サリン事件のことを伝えましたが、私の生まれるよりもっと昔、時代は幕末の頃のお話になります。ちょうど170年前に日本で初めて西洋船が建造されました。それは静岡県の沼津市の戸田村という所になります。これはちょうどその頃にロシア船のディアナ号が富士沖で沈没してしまったからです。乗っていた500人の船員は宮島で地元の住民に救い出されて、皆さんのご先祖に助けられました。宮島ですから田子浦中学校出身の方ですかね。そこから沼津を通り、西浦を通して、戸田という所で帰る西洋船を自力で造ったということです。

異国の地へ来て帰る乗り物を失ってしまったんです。例えば皆さんが海外へ行って帰りの飛行機が飛ばなくなったと思ってください。どんな手段を考えますか。今から170年前、その時には現地の日本人たちが駆り出されて、設計図を見ながら見よう見真似で造ったのがヘダ号で、これに乗ってロシアのプチャーチンは帰国できたのですが、彼は日本に来て大地震（安政東海地震）に遭い、船が損傷し、挙句の果てに沈没するという困難にぶつかりながらも日露和親条約を結び、無事本国へ帰れたのです。彼の強い意志を学ぶとともに、この

西洋船を造った伊豆の人々が後の日本の船大工となっていたことも忘れてはならないでしょう、

ここで何が言いたいのかというと、人間困難にぶつかった時に何ができるかということです。170 年前、この大変な事態に日露双方の人たちで協力して船が造れたわけで、困難な時こそ人の協力は必要であり大切であるということです。

日本人で逆の経験者がいます。やはり江戸時代のことで、大黒屋光太夫という伊勢の船乗りが御前崎沖で嵐に遭って、カムチャッカ半島まで流されました。地球の北の果ての方です。現地でロシア船が難破した残骸があり、これを組み立てて船としてロシアに渡り、最後は日本に帰ってきました。船の造り方を知らなくとも、見よう見真似で造ったんです。これも仲間の協力があつたからこそです。それほど仲間は大事です。

今年 1 年間学校生活を過ごす中で、是非友だちを作り、仲間を作って過ごしてください。今日午後には入学式があります。新たな 1 年生も仲間として教えてやってほしいと思います、

以上で校長講話とします。

(令和 7 年 4 月 7 日、始業式)